

軒先でお米づくり

志布志市立志布志小学校 PTA 会長 竹之内 清政



ト口箱での田植えの様子

わが家のチャレンジは、ト口箱を使って自宅の軒先で稲を栽培し、お米を収穫し食べることです。

昨年来のお米の価格高騰が、多くのニュースで取り上げられたことをきっかけにわが家の子供たちがお米

に興味を示したので、企画しました。

知り合いの農家さんから「なつほのか」という早期米の苗を分けていただき、ホームセンターで稲専用の土を購入し、湧き水を汲んできて準備完了。2年生と6

年生の息子たちで、3株ずつの苗を「元

気に育つておいしいお米を実らせてね。」との願いを込めながら、計

8か所に植え付けました。

6年生の息子は「たくさ

んお米ができるといいね。すっかりお

世話します。」

2年生の息子は、「カエルが卵を産みに来てくれるかな。」と2人とも目をきらきらさせながら語っていました。

8月の収穫までの間、水の管理に病気や鳥害・地風対策など様々な困難を経験すると思います。

その都度対策を調べて対応することで、農家さんたちがおいしいお米を消費者に届けるためのご苦労を学ぶ貴重な機会になると思います。

また、少しの量ではありますが、自ら育て収穫し味わうことで、これまで以上に食べ物への感謝の気持ちで育つことを願います。

そしてこの体験が、この先の子供たちの成長に繋がるよう親としてしっかりとサポートしていきます。